

水稻の「いもち病」に注意しましょう

発生予察巡回調査で7月22日に能勢町、豊能町、茨木市で、8月5日に富田林市で葉

いもちの発生が認められました。8月に入ってから、山間部では病斑がかなり見られると
の情報も植物防疫協力員から得られています。

また、気象予報では、8月前半の気温は平年よりやや低く、雲が広がりやすいと予想されています。

そのため、今後、出穂期に向けて穂いもちの感染が懸念されます。

山間部や日当たりの悪いほ場、葉色が濃いほ場、常発地等では特に注意が必要です。

○対策

(1) ほ場の状況をよく観察し、適期に防除する。

・穂ばらみ期～出穂期に薬剤を散布する。

・発生が多い場合はさらに穂ぞろい期～乳熟期にも散布する。

・農薬により使用時期が違うので、ラベルをよく読んで適期に散布。

(2) 農薬耐性菌の出現を防ぐため、同一グループの農薬を連用しない。

(3) 農薬散布後1週間は落水やかけ流しをしない。

(4) 農薬を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意。

(5) 以下の薬剤を参考にして下さい。

・ブラシンフロアブル(葉いもち・穂いもち 1,000倍 収穫21日前／2回)

・フジワン粒剤

(3～5kg／10a 葉いもち：初発10～7日前ただし収穫30日前、

穂いもち：出穂30～10日前ただし収穫30日前／2回)

・コラトップジャンボ

(10～13パック／10a 葉いもち：初発20日前～初発時、

穂いもち：出穂30～5日前／2回)

・キタジンP粒剤

(3～5kg／10a 葉いもち：初発7日前～初発時、穂いもち：出穂20～7日前／2回)

・オリゼメート粒剤

(3~4kg／10a 葉いもち：初発 10 日前～初発時ただし収穫 14 日前、
穂いもち：出穂 4～3 週間前ただし収穫 14 日前／2 回)

◎防除薬剤については、

- Web 版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
 - 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム
(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)
- にて確認してください。